第 2016-23 号

恵みと真理のニュース

2016 年 6 月の一次　恵みと真理教会
韓国 京畿道 安養市 萬安区 安養路 193 / ☎82-31-443-3731 / www.gntc.net

［証］

伝道と賛美を歌うのを用いてくださり、豊かな福を与えて下さる神様に感謝します

“昼には太陽のように夜には月のように生きられるか。欲望もなく暗い世を照らして他の人のため生きるように、私の夢があったらこの世の光と塩になって貧しくて疲れている人を主に導きたい。私が好きな賛美歌の歌詞です。”恵と真理賛美58章で心と魂で賛美を捧げ証しを書きます。

私は小学校の時から家の近くにある教会を通い信仰生活をしました。しかし、青年になって様々な言い訳をして信仰生活を疎かにしてしまい結局、主から離れました。田苦しい時、大変な時だけ主を捜し助けを求めて祈りをしながらも教会に行って礼拝に参席する考えはしませんでした。理由はともかく救いの概念について正しく確実な認識がなくて“驚くてすばらしい救いを”閑却したからです。

結婚して今、住んでいるところに引越しして、いとこに伝道され恵と真理教会で新に信仰生活をしました。はじめは旦那の反対が酷くて区域礼拝だけ参席しましたが、御言葉に恵まれ旦那の迫害と非難の中でも主日礼拝と水曜礼拝も捧げるようになりました。主の前に出ると続けて悔い改めの涙がながれて隣人に恥ずかしいくらい涙が止まらなかったです。神様は礼拝の時間ことに御言葉と聖霊で私に大きい恵を与えてくださり、慰められ新しい力をくださいました。区域の首区域長も私が強い信仰を持って主の事に献身するまで主の愛で良く見守ってくださいました。教会に行って伝道する時には自分の手をとって導く区域長に感動され首区域長の勧めに従順しました。そして、神様の愛を悟ってこの大きい救いの恵に感謝し感激にして、自然に主の事にも参与し献身する信仰生活になりました。名誉な区域長の職分を受けて区域を任せ支えています。

他の区域員達もいなくてもテーブルの上に恵と真理ニュースを見ながら7人の区域聖徒と共に礼拝を捧げるのを想像して一人で礼拝を捧げました。“神様、今一人で礼拝を捧げていますがまもなく7人以上の聖徒達と共に集めて礼拝を捧げるように導いてください。大胆に福音を伝えるように勇気と熱情と伝道の実りを与えてください。区域の伝道の門が開かれるようにしてください。と祈りました。一人で礼拝を捧げながらも何人いるような想像して切に祈る時に神様は大胆さと勇気を与えて下さり、私の心に救われなかった魂に対する哀れむ心を与えてくださいました。イエス様を信じない人を見ると口を開いて福音を伝えないといられない心になり、魂に対する切ない心で祈るようにしてくださいました。伝道の手帳対象者の名前を書いてまず名前を呼びながら祈って伝道しました。

伝道する時いくら迫害をされても酷い悪口を聞いても最後まで諦めなくて一人も尊く思った主の心で伝道を熱心にしました。そうしたら、一人、二人が心を開いて耳を傾けました。はじめの伝道に成功した時に嬉しいと感動を忘れません。初めて決信者を導くまで大変で疲れましたが、そのつぎからは伝道するのが容易になりました。そして、伝道した人の信仰が成長し変化され、奉仕をして御言葉に従順する姿を見ると恵と感動は言葉で表現できないほど喜びとやりがいを感じました。その喜びとやりがいは伝道の原動力になりました。そして、区域の聖徒が増えて区域礼拝ができるくらいリバイバルをしました。神様に栄光を捧げます。

“何よりもまず、神の国と神の義を求めなさい。そうすれば、これらのものはみな加えて与えられる。”(マタイの福音書　6：33)御言葉のとおり、私の優先順位を礼拝と伝道と奉仕を中心にしたら神様が驚くほど家庭に福を与えてくださいました。何よりも神様は親戚の不信者一人ずつ救ってくださったのが一番驚いて大きい福です。

父はある日突然、心筋梗塞で倒れて金曜礼拝で当会長牧師と多くの聖徒が祈ってくださって病院の牧師と伝道士も訪問してくださって奇跡に完治されました。イエス様を受け入れ執事の職分も受けた父親は教会のアンサン聖殿で礼拝中心で幸せな生活をしています。そして、92歳になった姑は末子の私が14年間前から支えましたが、支えてから4年になった時にイエス様を受け入れ、神様の恵みによって今まで健康な体で神様に礼拝を捧げ、福ある生活を過ごしています。ただ、決心してまだ信仰がなくて礼拝を疎かにする旦那を見ると気の毒で心が痛いです。しかし、旦那もいつか真実に神様の子供として変化され、清い賛美の場に出て私と共に立つのを信じるのを期待しながら神様に祈ります。

尊い子供達をくださった神様に感謝を捧げます。長女は大学費のため歯科でアルバイトをして十一献金をささげたら、以後、神様は全額奨学金を受ける喜びを与えてくださいました。二番目の息子も軍隊に入隊して健康な姿で服務しています。入隊する前大変な事もありましたが、主の前で膝をまずいて祈って、神様の慈しみと愛を悟って教訓を得てただ主だけを見上げながら常に感謝する生活をするようになりました。このように子供達にも助けてくださる神様の恵に感謝します。

“主に自らをゆだねよ／主はあなたの心の願いをかなえてくださる。(詩篇３７：４)ポイル聖殿で聖歌隊員と共にGNTCフルートアンサンーブルで神様に賛美を捧げ教会を仕えています。数えられない多くの賛美する条件をくださって賛美する心を与え、私の賛美を聞かれる神様に感謝し、もっと良い声で演奏をして賛美するように祈ります。言葉では表現できない神様の愛と恵を悟り、体験して心と思いを尽くして賛美するように導いてくださり、首区域長の職分をくださって今日も伝道する楽しみを享受するように導く神様に感謝と賛美捧げます。

ただ主だけを見上げ日々使命を忠実に担えるのを念を押して全ての栄光を神様に捧げます。“しかし、自分の決められた道を走りとおし、また、主イエスからいただいた、神の恵みの福音を力強く証しするという任務を果たすことができさえすれば、この命すら決して惜しいとは思いません。”(使徒言行録20：24)　アーメン

［信仰コラム］

天国への招待

”...「天国は、ひとりの王がその王子のために、婚宴を催すようなものである。王はその僕たちをつかわして、この婚宴に招かれていた人たちを呼ばせたが、...”
（マタイによる福音書 22：1～3、ルカによる福音書 14：16～20）

この世のいかなる招待だとしても比較できない最上最高の招待があります。このような招待を受けられなかった人は誠に愛しい人であり、このような招待を無視し拒んで、おろかに扱う人はとても愚かしい人です。その反面、このような招待を受けて喜んで応じる人は誠に福のあるひとです。

第一、最上最高の招待は天国への招待です。イエス様は天国とはまるで王子のために婚宴を催したある王と同じだと言われました。天国には喜びを害する要素が一つもありません。死も、悲しみも、叫びも、痛みもなく呪いと夜がありません。この盛大な宴会はイエス様の誕生と生涯、死という夥しい犠牲そして、復活と昇天という奇異で驚くべきな事事がなかったら準備できない宴会であります。神様がこのように豊かで、美しくて、宴会の楽しみが常にある天国に人生達を招待しております。

第二、天国への招待に応じない人々が多くいます。招待に応じない様々な理由を話すが実は、心の問題であるだけです。言い訳をして拒む人々は天の国よりこの世に関心を持っています。この世の事に執着して没頭し天国への招待を拒むことは愚かの極致であります。招待を述べ伝える人を迫害する者は神様の怒りを買い、最後の審判台の前で最も恐ろしい審判を受けるでしょう。

第三、天国への招待に応じる人々がいます。招待の対象には悪い者と善良な者の差別がありません。人間の基準で区分された悪い者や善良な者も神様の基準で見たら全てが罪人です。この世には二種類の貧しい者達がいます。財物がなくて貧しい者、孤独で疎外されて心が貧しい者がいます。痛い所や障害がなく健康で活動に自信があった人も体が病んで障害が生じたら心が貧しくなり、苦痛と不便がない天国に対する話しに心が引かれるようになります。このような人々が神様の招待に応じると身分と都合が明らかに変わります。

第四、人々に天国への招待メッセージを述べ伝える人々が実践すべきの任務遂行方法があります。”道やかきねのあたりに出て行って”引っ張ってくるように言われまた、”町の大通りに出て行って、出会った人はだれでも婚宴に連れてきなさい”と言われました。積極的で能動的に人々に接近し、天国の宴会に参加するよう導くことを指示しました。どこでも出て行って引っ張ってくるよう言いました。行動半径を拡大して探し出すべきです。”無理やり”に引っ張ってきなさいと言われました。付いて来なくてはおられないようにすべきだというお言葉です。”この家がいっぱいになるように”としました。教会は天国の支店です。天国宴会の楽しみを教会を通じて先に味わうことが必要です。教会は新たな信者で続いて満たされるべきです。福音伝道とは人々を神様が備えられた天国宴会に導くことです。限りなく楽しくて豊かな宴会に参加するよう導くことです。

第五、天国宴会に参加するためには必ず礼服を着るべきです。誰も神様が備えられた”義”を纏わさなくては天国に入ることができません。招待に応じたが礼服を着ない人々とはキリスト教の本質を捨てて皮相的な面だけを取る人々です。彼らはキリスト教を様々な宗教の中で一つだと考える人々、修養と慈善が信仰生活の最高目的である人々、教養を涵養して人々と交わり奉仕活動に参加することを信仰生活の本質に扱う人々です。そして、私的な利益を求めて獲得することが信仰生活の目的である人々です。

イエス様は”天国宴会への招待”に対する話しの最後に”招かれる者は多いが、選ばれる者は少ない”（マタイによる福音書２２：１４）というお言葉で話をつけられました。福音を聞いた人は全て招きを受けた人であります。福音を聞いて聖書通りにイエスキリストを信じる人は選びを受けた人です。そして、選びを受けた人は相変わらずイエスキリストを愛します。

「チョヨンモク牧師先生の信仰コラム‘緑の牧場、清い川’本の語り中」

人を新しく生まれかわる聖霊

恵みと真理教会 **チョヨンモク** 牧師

聖霊降臨の週間を迎えて “聖霊がなさる働き”について聖書に記録されたお言葉をよく見ます。聖霊はイエスキリストが世の中へいらっしゃることのついて予言者に感動して予言して記録させました。 時がなるとイエスキリストが童貞女の身に聖霊に孕胎されて人の身を着て世の中へいらっしゃらせました。 そしてイエス様が聖霊に充満して活動させたし、聖霊を通じて完璧な自分を犠牲のお供えで神様に差し上げて永遠なあがないを成させました。

今日は聖霊がなさる働きの中に人を新しく生まれかわらせる働きに関してよく見ます。

新しく生まれかわるに関してイエスキリストが親しくおっしゃったし、聖霊の感動を受けた使徒が聖書に記録してからその驚くべきで神秘な秘密が公開されたのです。 新しく生まれかわるに関して ヨハネによる福音書 3 章に詳らかに記録されているのでここに記録されたお言葉を中心によく見ます。
イエス様はニコデモに神様の国に入る道に関してきちんきちんと説明しました。 先ず新しく生まれかわらなければならないと言いました。新しく生まれかわることは聖霊によることで体ではなく霊魂に起きることであるとおっしゃいました。 そして聖霊が人を新しく生まれかわるようになさる働きはまるで風が我らの目に見えないが吹くことが実在するので吹くのが行った事の結果を私たちが見られることのようであるとおっしゃいました。 その次には、 モーセが荒野でへびを上げたように へびを眺めれば生きるという神様のお言葉をそのまま信じて眺めることで生きるようになった人々のようにイエスキリストを信じるだけで永生を得るとおっしゃいました。 “人がどのようにすると神様の国に入ることができますか?” というニコデモの質問に対するイエス様の返事を整理すれば “神様の国に入ろうとすれば聖霊で新しく生まれかわって永生を得なければならないし、聖霊で新しく生まれかわって永生を得ようとすればイエスキリストを信じなければならない。” と要約することができます。

聖霊で新しく生まれかわるに関してもう少し調べます。

イエス様は人が新しく生まれかわることはまた母の胎に入ってから出るのではなく、“水と聖霊で生まれる”と説明しました。 水は洗ってきれい潔にさせます。 これはイエスキリストを信じて罪の洗いを受けることを意味します。罪の赦しと聖霊の働きだけが新しく生まれかわるようになります。 ヨハネ福音 1 章 12 節と 13 節に記録されるのを “しかし、彼を受けいれた者、すなわち、その名を信じた人々には、彼は神の子となる力を与えたのである。 それらの人は、血すじによらず、肉の欲によらず、また、人の欲にもよらず、ただ神によって生れたのである。” と言いました。

人が新しく生まれかわって神様の子になることは人ができる働きが全然ないです。 聖霊が働いた結果です。 誰でも聖霊によらなくては新しく生まれかわることができないです。それでローマ人への手紙 8 章 9 節に “しかし、神の御霊があなたがたの内に宿っているなら、あなたがたは肉におるのではなく、霊におるのである。もし、キリストの霊を持たない人がいるなら、その人はキリストのものではない。” (ローマ人への手紙,8:9)で言いました。 イエスキリストの霊がすなわち聖霊です。 コリント人への第一の手紙, 12 章 3 節には “そこで、あなたがたに言っておくが、神の霊によって語る者はだれも「イエスはのろわれよ」とは言わないし、また、聖霊によらなければ、だれも「イエスは主である」と言うことができない。” と宣言しました。 イエス様を自分の救世主に信じて神様だと言うことやはり聖霊の教えることと助けることがなくてはできないです。
だからこの事のためにイエス様が自分がこの世を立ち去れば聖霊を送るとおっしゃいました。 “しかし、わたしはほんとうのことをあなたがたに言うが、わたしが去って行くことは、あなたがたの益になるのだ。わたしが去って行かなければ、あなたがたのところに助け主はこないであろう。もし行けば、それをあなたがたにつかわそう。それがきたら、罪と義とさばきとについて、世の人の目を開くであろう。罪についてと言ったのは、彼らがわたしを信じないからである。義についてと言ったのは、わたしが父のみもとに行き、あなたがたは、もはやわたしを見なくなるからである。さばきについてと言ったのは、この世の君がさばかれるからである。”(ヨハネによる福音書 16:7～11). イエス様は救いの真理を義と罪とさばきという三つの用語として整理して説明しました。 義が何で罪が何でさばきが何やら分かれば救いの真理を明確に説明することができます。 “罪について、義について、さばきについて世の中をとがめよう” としました。
世の中と言うのはサタンの支配を受けて、神様の怒りの下にある人々を示します。聖霊は人々に罪が何か、義が何か、さばきが何なのか明らかに現わして分からせてくださって、誤れた考えを叱って直します。 “罪についてとすることはあなたが私を信じないからである” としました。 人間において一番深刻な罪はイエスキリストを信じないのが罪です。 何故ならばイエスキリストが人間のすべての罪を担当してあがないしたからです。 だから誰でもイエスキリストを信じるだけで すべての罪の赦しを受ける事ができます。 神様の選んだ者は聖霊のとがめを受けてイエスキリストを信じないことが滅亡に至る罪ということを悟って悔い改めるようになります。イエスキリストを信じてから自分の救世主で迎接して受け入れて神様を仕えるようになります。

“義についてと言ったのは、わたしが父のみもとに行き、あなたがたは、もはやわたしを見なくなるからである。” としました。 人々は義について思い違いをしています。 一般的に人々は義を国家と社会が決めた法や宗教の戒律や道徳と規範と係わって思います。イエス様の当時に人々がこのような基準でイエス様を不義な者に規定して判決しました。 そしてユダヤ人と異邦人が結託してイエス様を十字架に釘を打って殺しました。 人間に死が近付いたことはアダムの犯罪によったのです。 悪魔の誘惑に負けたアダムとエバは神様の命令を破って善悪を知る木の実を食べました。 “善悪を知る木からは取って食べてはならない。それを取って食べると、きっと死ぬであろう”と言う神様のお言葉どおり人間は霊的な死とともに肉体も徐々に死に至るようになりました。 このように死は罪からよったのです。

人々の考えどおりイエス様が自分の罪によって神様の懲罰を受けてたまらなかったらその死体が墓に葬られになったそのままあるしかないです。 それだけではなく私たちの罪を完全にあがないすることができなかったと言えば墓にあるしかないです。
ところでイエス様は葬られになってから三日ぶりに死亡の権勢を勝って復活しました。 これはイエス様が罪のない方であるという事実と私たちの罪を成功的に完全にあがないしたという事実を皆確証するのです。 イエス様は復活した姿を 40 日間や多くの人に多くの場所で現わしたように見えました。 そして多くの人が見守る中に天に上がって義のある父の位にいらっしゃいました。 イエス様が義のあるということはこんなに明らかに証明されました。 同時にイエスキリストを信じる人のすべての罪があがないになったのが証明されました。 だからイエスキリストを信じる人にくださる義は罪が全然ない状態で神様の前に大胆に進むことができる資格です。 このような義に対する真理は人間が自ら悟ることができないです。 聖霊は福音をきく者に義に対する彼らの誤れた考えを叱って直してくださって同時にイエスキリストを信じる人が義のあるようになった理由が分からせます

“さばきについてと言ったのは、この世の君がさばかれるからである。”と言いました。 聖霊はさばきについても人間の思い違いを叱って直します。 さばきは “この世の王”と関わります。 ここに “この世の王”と言うのはサタンを示します。 イエスキリストが受けた苦難はカリオテユダとユダヤ社会の政治、宗教リーダーによることであるが実はサタンです。 イエス様は父のみ旨を果たすために苦難を受けて十字架に釘付けたのです。 イエス様の死は敗北ではなくこの世の王で君臨しているサタンに対するさばきになることをおっしゃったしこの世の王が追い出されて行くようになることをおっしゃったのです。 果してイエス様が十字架で死んで墓から復活するのでサタンの頭が壊れるようになりました。 ヨハネの第一の手紙, 3 章 8 節に “罪を犯す者は、悪魔から出た者である。悪魔は初めから罪を犯しているからである。神の子が現れたのは、悪魔のわざを滅ぼしてしまうためである。” と言いました。 罪と死亡の権勢を持って世の中に君臨しているサタンにイエス様の死は決定的でした。 イエス様の復活で罪と死亡の権勢が廃されたからです。イエスキリストを信じる人は罪の定めを受けないし刑罰のさばきを受けなくなりました。

だからイエス様の死と復活はサタンに対するさばきでした。 サタンはイエスキリストを信じる者にはこれ以上の罪と死亡の権勢を持って君臨することができなくなりました。 聖霊は人生にこの世の王で君臨しているサタンがどのようにしてさばきを受けたしその結局がどうなるはずなのかを明らかに現わして分からせてくださって、誤れた考えを直します。 聖霊は罪について、義について、さばきについて正しく分からせます。 イエスキリストを信じて新しく生まれかわったのは皆が聖霊からよったのです。皆さんは新しく生まれかわった人に神様の再臨を待つ心と天国の所望によって神霊な喜びに充満で歳月を惜しんで神様の働きに力をつくすように願いします。